建築人

6

2015

大阪ホンマもん

記憶の建築

松隈　洋

三里塚教会　1954年
時代を目撃した祈りの場

吉村順三（一九〇八～九七年）が手がけた唯一の小さな木造教会が千葉県成田市に現存する、そう聞いたのは、二〇一三年秋開催の展覧会「三里塚教会物語と吉村順三展」（ギャラリーエークワッド）の企画協力を依頼された時だった。彼の師のA・レーモンドが聖ポール教会やアンセルモ教会など多くの教会建築の名作を残したのに対し、吉村は一つしか設計していないことに驚かされた。同時に、一九五四年に竣工したその三里塚教会に興味を覚えた。こうして、二〇一三年九月、大学院生二人と模型制作のための実測調査に現地へ向かった。

訪れると、周囲には農村の面影が残る。しかし、わずか四〇〇mほど先には巨大な成田国際空港（一九七九年）の敷地が広がり、ジェット機の爆音が轟いていた。それにしても、教会の竣工当時、周囲はどんな風景だったのだろうか。そのことを伺い知ることのできる対談がある。パリ郊外の農村バルビゾンの風景を描いた画家のミレーをきっかけに、次のように語られていく。

「私の印象に残るミレーの言葉は「私は農民の子である。生涯農民で終わる」という一言です。決して「生涯芸術家で終わる」とは言っていない。そこに彼の面目躍如たるものがあると思うのですよ。それとミレーの作品にあらわれてくるあの風土。私自身やはりミレーと同じような環境に生まれ育ったのじゃないかということをたえず感じてきたのです。あなたは戦前の三里塚をごぞんじでしょうか。成田からバスにゆられて三〇分、私の三里塚すなわちバルビゾンですね。その三里塚に入ってくると、ちょうどミレーの「晩鐘」とか「落穂拾い」の背景のような平原が開けてですね。放牧の馬や牛、草を食む白い綿羊の群れがまあ点々と見える。展覧会前の制作時期、七、八月頃になると、画家たちが次から次へとやってくる。私は小学生、中学生のころ、画家たちのあとをついて歩き、これと思う画家の横に画架を並べていっしょに絵を描いたこともある。あらゆる風物が牧歌的で、ミレーの作品を日本に再現したのが私のふるさとではないかと思っていました。」（対談「三里塚とミレー」『実存の戸村一作』れんが書房新社一九九九年に再録）

この発言者こそ、吉村に三里塚教会の設計を依頼した戸村一作（一九〇九～七九年）である。彼は、かつてこの近くにあった「皇室の牧場」として知られた下総御料牧場の厩の世話役として雇われ、退職後に農機具商を営んだ祖父の仕事を受け継ぎながら、鉄材を使った彫刻家としても知られた敬虔なキリスト教信者だった。残念ながら、戸村がどのような経緯で東京芸術大学助教授の吉村に設計依頼したのかはわからない。しかし、吉村が三里塚の農村風景に魅せられたことが想像できる。というのも、吉村には、設計依頼を受ける一九五三年までの間に、それに感応する経験があったからだ。

一九二六年に東京美術学校へ入学した吉村は、建築雑誌に掲載された模型写真に惹かれてレーモンドの自邸を探しだし、それをきっかけに彼の事務所に通い始める。一方、レーモンドは、日本の木造民家や集落の中に自らの目指す建築のエッセンスを見い出し、精力的な設計活動を始めていた。この時、そのまま所員になった吉村は、レーモンドにとって日本文化の案内役として重宝がられたに違いない。だが、日米関係の急激な悪化から、レーモンドは一九三九年にアメリカに帰国し、フィラデルフィア郊外のニューホープに敬虔なクエーカー教徒たちが切り拓いた農場を買い取り、アトリエを構える。そして、そこに吉村を呼び寄せたのである。こうして、一九四〇年五月、吉村は単身アメリカへと渡る。このアメリカ滞在は長くは続かず、太平洋戦争直前に断ち切られ、吉村は、一九四一年八月、最後の帰還船で日本へ帰国する。けれども、日本から遠く離れた孤独な生活の中で、吉村は、周囲の簡素な民家や農場の納屋に魅せられ、たくさんのスケッチを描き、カラースライドに多くの写真を納めていた。そこには、生活の中で培われたものに対する共感と敬意が読み取れる。そして、だからこそ、一〇数年後に訪れた三里塚のビロードのような赤茶色の畑と松林、御料牧場の周囲に咲き誇る一〇万株の桜が織りなす風景に同じものを感じ取ったに違いない。

三里塚教会は、赤い鉄板屋根、柱を露出させた真壁構造の外観、漆喰塗りの白壁と杉板のドイツ下見板張りの外壁からなる質素な建物だ。もし鐘楼がなければ、ごく普通の農家にしか見えないだろう。しかし、内部に入ると、思いのほか広い礼拝堂が現れる。天井面に小屋組みが露出し、レーモンドの聖ポール教会を思わせる。むしろ、力まずに簡素にまとめられ、中でも祭壇の背壁の扱い方が秀逸だ。中央部が外側へずらされて両側のスリット窓から自然光が入り、柱と梁がさりげなく十字架の形に浮かび上がる。吉村がデザインした長椅子や祭壇も含めて、清新な祈りの空間が広がる。

しかし、一九六六年、突如、国際空港建設が閣議決定され、環境は激変する。戸村は開墾移民たちが育てた農地を守るために亡くなるまで反対同盟の委員長として尽力する。だが、建設は強行され、彼の愛した農村風景は失われた。それでも、激動の戦後史を目撃した三里塚教会は、その意味を問う場として今も静かな時を刻んでいる。

アプローチから見る教会全景

内部の礼拝堂を見下ろす

松隈　洋
京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

INFORMATION については本会ホームページにも掲載されています。
本会ホームページの WEB 申込システムから簡単に申込みができます。【詳細は大阪府建築士会ホームページ】http://www.aba-osakafu.or.jp/ まで

Sponsorship
建築士会からのお知らせ

本会における既存建築物耐震診断等評価業務

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の専門家で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。
公立学校施設や沿道建築物などの耐震不適格建築物について、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。
スピーディな審査を心掛けますのでどうぞご活用ください。
（業務内容）
耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画案の審査、評価 等
（対象建築物）
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。
（会員特典）
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。
詳細は、本会ホームページをご覧ください。

「建築家と建築士−法と住宅をめぐる百年」講演会
安心な住まいとまちをささえる「建築家と建築士」の役割とは
6/13　CPD2単位

2014年度日本建築学会著作賞を受賞した速水清孝氏の著作「建築家と建築士ー法と住宅をめぐる百年」の講演と共催団体の建築家・建築士によるディスカッションを行います。
共催　NPO法人西山夘三記念すまい・まちづくり文庫、（公社）大阪府建築士会、（公社）日本建築家協会近畿支部、（一社）日本建築協会、（一社）大阪府建築士事務所協会
講師　速水清孝（日本大学工学部教授）
日時　6月13日（土）　15:00〜17:00
会場　梅田スカイビルタワーウエスト36階
大阪市北区大淀中1-1
JR「大阪」、阪急・地下鉄「梅田」下車
参加費　無料
定員　100名（要申込、先着順）
問合・申込　（公社）日本建築家協会近畿支部
Tel.06-6229-3371

被災建築物の応急危険度判定養成講習会
6/17・8/19・10/21・12/16・2/17

本講習会は、地震等により被災した建築物の余震等による倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止するため、被災建築物の応急危険度判定を行う大阪府被災建築物応急危険度判定士を養成する講習会です。
日程　①6月17日（水）　②8月19日（水）
③10月21日（水）　④12月16日（水）
⑤平成28年2月17日（水）
時間　13:20〜17:00
会場　大阪府建築健保会館6階ホール
定員　各150名（定員になり次第締切）
受講料　無料
テキスト代　1,500円（被災建築物応急危険度判定マニュアル）
申込受付　一般財団法人大阪建築防災センター
※大阪建築防災センターのホームページ
http://www.okbc.or.jp/

「中之島フェスティバルタワー」建築技術講習会
6/18　CPD4単位

「中之島フェスティバルタワー」は、音楽の殿堂と称された旧フェスティバルホールの建替えに伴い、新たにフェスティバルホールと商業施設、オフィスを超高層ビルに内包した、大阪の新たなランドマークとなる魅力的な街です。伝統あるホールの音響特性を継承した高度な技術を始め、建設にあたって開発された中間層免震構造や河川水利用の冷暖房システムなどの斬新なアイデアや新技術、また現場の工夫・苦労など、設計者、施工者自らの視点で語り「中之島フェスティバルタワー」の全貌をわかりやすく紹介します。
日時　6月18日（木）　13:30〜17:30
会場　中之島フェスティバルタワー
26階会議室
最寄駅　地下鉄「肥後橋駅」下車
内容　中之島フェスティバルタワーにおける建築計画、構造計画、設備計画、施工計画
定員　140名（定員に達し次第締切）
受講料　会員3,500円　一般5,500円
学生1,000円（テキスト代含）

建築士の会　東大阪
瓢箪山周辺史跡と東大阪市立郷土博物館見学会・活動報告会
6/20　CPD3単位

東大阪市に在住又は在勤の会員の方を対象に活動している「建築士の会東大阪」では、今回、瓢箪山周辺史跡と東大阪市立郷土博物館・山畑古墳群の見学会を開催致します。見学後「歴史講演会」および、「建築士の会東大阪」の活動報告会を行います。地域以外の会員の方のご参加も大歓迎です。報告会終了後は懇親会も企画しています。皆様、是非ご参加ください。
日程　6月20日（土）
集合　13:30
見学　13:40〜（河内廃寺跡ー客坊山古墳群ー郷土博物館）
歴史講演会　15:35〜
活動報告会　16:25〜
懇親会　17:15〜
集合場所
近鉄奈良線　瓢箪山駅　（南側噴水前）
募集　30名（申し込み先着順）
参加費　1,000円
（入館料、保険代、資料代、飲物代含む）
懇親会参加は別途4,000円程度
懇親会参加の有無を明記のこと。
※参加証は実施1週間前に出状します。

二級建築士/設計製図　受験対策講習会
実力養成コース　7/12〜9/6
直前対策コース　8/23〜9/6
模擬テストⅠ・Ⅱ　8/2、9/6

試験合格だけではなく、実務に活用できる技術指導を行います。
■実力養成コース（模擬テスト2回含む）
日程（10日間）
7/12（日）、7/19（日）、7/20（祝）、7/26（日）、8/2（日）、8/9（日）、8/16（日）、8/23（日）、8/30（日）、9/6（日）
時間　9:15〜16:45
定員　15名（申込先着順）
受講料　会員120,000円　一般140,000円
■直前対策コース（模擬テスト1回含む）
日程　8/23（日）、8/30（日）、9/6（日）
時間　9:15〜16:45
定員　20名（申込先着順）
受講料　会員40,000円　一般45,000円
■模擬テストⅠ・Ⅱ
日程　Ⅰ:8/2（日）、Ⅱ:9/6（日）
時間　9:15〜16:45
各回定員　25名（申込先着順）
各回受講料　会員13,000円　一般15,000円
会場　（各コース共）大阪府建築健保会館
最寄駅　地下鉄「谷町4丁目」下車

大阪府知事指定講習
平成27年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》
8/18・1/19　CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。したがって、変形能力が高い伝統構法の民家や社寺建築の耐震性能を多角的に評価でき、一般診断法では不可能な変形能力や減衰性能を考慮した合理的な補強計画やダンパーを用いた最新技術による制振補強も可能となります。この機会に限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。
日程　①8月18日（火）　②1月19日（火）
時間　10:00〜16:30
会場　大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅　地下鉄「谷町四丁目」下車
定員　各150名（定員になり次第締切）
受講料　会員6,000円　会員外8,000円
テキスト代　4,000円（大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル）

大阪府知事指定講習
平成27年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》
9/8・12/8・2/9　CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。
（本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。耐震改修促進法により耐震診断が義務付けられた建築物の耐震診断は、日本建築防災協会が実施する登録講習を受講修了する必要があります。）
日程　①9月8日（火）　②12月8日（火）
③平成28年2月9日（火）
時間　10:00〜15:50
会場　大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅　地下鉄「谷町4丁目」下車
定員　各150名（定員になり次第締切）
受講料　会員5,000円　会員外9,000円
テキスト代　7,200円（2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法）

第58回建築士会全国大会「石川大会」
10/30

テーマ　百万石の地で触れよう
未来につなぐ　まちづくり
期日　10月30日（金）
会場　石川県立音楽堂、
ANAクラウンプラザホテル金沢
※地域交流見学会（エクスカーション）は
10月31日（土）に実施
本会会員には大会登録料5,000円を補助します。
申込　建築士５月号 P28 の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、本会事務局まで提出。
締切　7月31日（金）
大会の詳細は「建築士5月号」をご覧下さい。

平成27年度建築士定期講習
11/12、12/22　CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は３年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。
本年度は平成 24 年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず受講してください。
日程
11/12（木）　定員200名 会場コード5C-52
12/22（火）　定員300名 会場コード5C-03
時間　9:30〜17:30
会場　大阪国際会議場
最寄駅　京阪中之島線「中之島」下車
申込締切日（申込書必着）
11/12（木）講習:10/16（金）
12/22（火）講習:11/17（火）
※簡易書留での郵送のみ受付いたします。
※各回定員に達し次第、受付を終了します。
受講料　12,960円（消費税含）
申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

平成27年度文化庁文化芸術振興費補助
登録有形文化財寺西家における地域活性化事業
6/5~8・6/14・6/27

場所　登録有形文化財寺西家
Tel.06-6624-7618
大阪市阿倍野区阪南町1-50-25
最寄駅　地下鉄御堂筋線　昭和町駅下車
徒歩1分
4番出口すぐ右折れーつ目辻右折れスグ

①伝統工芸士による手技・実演
日本の伝統技能である絞りの手技ができる職人が激減しているなか、伝統工芸士の資格を持つ松田美津雄氏にその技術の伝承と伝統文化の大切さを地域の人に理解してもらう機会です。そして、それを寺西家で行うことによって、登録有形文化財の普及を図ります。
日時　6月5日（金）〜8日（月）10:00〜17:00
（初日12:00〜/最終日16:00迄）
入場　無料

②手づくり梅酵素ジュース講習会
そのままでは食べられない梅を、梅干しや梅酒、梅シロップなどに加工して食べる昔ながらの知恵で、残したい日本の食文化です。それを伝統的な登録有形文化財寺西家で行います。
日時　6月14日（日）
1部　10:00〜12:00（定員10名）
2部　13:00〜15:00（定員10名）
参加費　材料費2,500円
（無農薬・オーガニック梅）
持ち物　エプロン、筆記用具、ふきん、ビン等の蓋付き容器等

③「落語」を登録有形文化財で楽しむ
登録有形文化財寺西家で毎月、落語会が開演されています。大正末に建てられた町家で、三味線や太鼓の囃子がはいる本格的な上方落語を間近で楽しめます。又、最後に近隣店から提供されたお土産の抽選会もあります。
日時　6月27日（土）　午後2時開演
<6月水無月席>
1、鉄砲勇助‥‥月亭秀都（文都門下）
2、火焔太鼓‥‥桂　文太（五代目文枝門下）
3、二階借り‥‥月亭文都（文都一門）
4、お楽しみ‥‥桂　文太（五代目文枝門下）
入場料　当日1,800円
前売・建築士会会員・田辺寄席会員
1,500円
・午前の部（自由見学）10:00〜11:30
参加費　500円
・午後の部（見学及び講演会）13:30〜15:30
受付開始　13:00
講師　中嶋節子氏（京都大学人間・環境学研究科教授、大阪府建築士会副会長）
対象者　大阪府建築士会会員及び大阪府登録文化財所有者の会会員
参加費　500円
※一般向けの見学会を秋頃に開催予定しています。

本会の催し参加問合・申込先
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration
行政からのお知らせ

平成27年度一園一室木のぬくもり推進モデル事業の事業者募集
5/26〜6/26

大阪府では、子育て施設において、子どもたちが直接触れる床や壁等の内装での木材利用を促進するため、民間保育所の内装木質化に対する補助事業を実施します。
受付期間　5月26日（火）〜6月26日（金）
補助対象者　対象施設を設置するもの
対象施設　大阪府内の民間の認可保育所
（認定子ども園を含む）
補助率　一園当たり800千円以内（事業費が800千円未満の場合は、事業費を上限とする）
詳細につきましては、大阪府森づくり課のホームページをご覧ください。
問合　大阪府環境農林水産部森づくり課
森林支援グループ
Tel.06-6210-9556（直通）
http://www.pref.osaka.jp/midori/midori/g-11ichien.html

大阪の別荘建築　朝陽館見学会
6/28　CPD2単位

大阪を代表する迎賓館として明治期に建てられ、皇族や政府高官が、宿泊や休憩などに利用された豪邸です。
それを公開することによって、当時の建築や襖絵それに調度品などの伝統文化に触れていただく機会です。又、当館を調査された中嶋節子教授をお招きし、講演会を開催します。
日時　6月28日（日）
場所　朝陽館　大阪市阿倍野区橋本町6-16
最寄駅　阪堺電軌上町線 東天下茶屋駅から
徒歩約7分
阪堺電軌阪堺線 聖天坂駅から徒歩
約6分

大阪府石綿飛散防止対策セミナー
6/12

石綿を使用した建築物等の解体等工事の発注者及び施工者が適切な石綿飛散防止対策を実施するにあたり、参考となる対策や法・条例の規制内容などを説明するセミナーを開催します。
日時　6月12日（金）　14:00〜16:00
会場　大阪府咲洲庁舎2階咲洲ホール
大阪市住之江区南港北1-14-16
内容　⑴建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策
⑵石綿飛散防止対策に関する法・条例遵守上の留意事項
⑶建築物石綿含有建材調査者資格制度と現状
申込締切　6月11日（木）
応募方法など詳しくはHPをご覧ください。
http://www.pref.osaka.lg.jp/jigyoshoshido/asbestos/10seminar.html
問合　大阪府環境農林水産部環境管理室事業所指導課大気指導グループ
Tel.06-6210-9581

特定建設作業等に係る講習会
6/26

建設作業に係る騒音・振動等の苦情の未然防止及び法令で定められた届出の円滑化等を図るため、講習会を開催します。
主催　大阪市環境局
日時　6月26日（金）　14:30〜16:30
会場　大阪市立中央区民センター
大阪市中央区久太郎町1-2-27
参加費　無料
参加方法　当日、会場へ直接お越しください。
（事前申込不要）
※満席により入場できない場合有。
問合　大阪市環境局環境管理部環境管理課
東部環境保全監視グループ
Tel.06-6267-9922

第6回 西宮市都市景観賞 応募・推薦作品を募集
6/10〜7/31

西宮市では、美しいまちなみづくりに貢献している建築物等や活動を表彰する「西宮市都市景観賞」を今年度実施します。
1.応募・推薦の対象
表彰部門は、まちなみ建築部門（建築物（建築群、工作物等を含む））、屋外広告デザイン部門（屋外広告物）、まちなみづくり活動部門（行為・活動）の3部門です。
また、応募作品は、市民が選ぶ「まちなみ発見クラブ賞」の選考対象にもなります。
※被推薦者が辞退したもの、公共事業によるもの、場所・表彰相手が特定できないもの、関係法令・条例に違反しているものは対象となりません。
2.応募・推薦期間
6月10日（水）〜7月31日（金）
※当日消印有効
3.応募・推薦の方法
E-mail、郵送又は窓口にて受付します。詳細は西宮市のホームページをご覧ください。
4.送付・問合せ先
西宮市都市計画部景観まちづくり課
〒662-8567　西宮市六湛寺町10-3
Tel.0798-35-3526/Fax.0798-34-6638
http://www.nishi.or.jp/

Others
その他のお知らせ

木造トラス勉強会
継手の原理・伝統木造の基本！
6/11

木造を設計する上で知っておくべき必要な基本の継手に関する構造理論と、形を真似して内容を真似しなかった機械加工についての考察と、軸組と継手の関係から伝統軸組の構造を考察します。
日時　6月11日（木）　14:00〜16:30
会場　NLC心斎橋7F小会議室
大阪市中央区南船場3-7-27
参加費　1,300円　　定員　10名
問合　（株）合掌・木造トラス研究所
Tel/Fax.0742-36-2929
http://www.eonet.ne.jp/~truss/index.html

沖縄の慰霊の日を考える
「幻燈で見る沖縄戦の戦争遺構について」
6/20

首里城地下の旧司令部壕，旧奉安殿跡、機銃掃射の銃弾跡、旧米軍のミサイル発射基地跡、防空壕跡、沖縄戦の図書を展示します。
日時　6月20日（土）　11:00〜
会場　堺市立東図書館（南海高野線北野田駅前）
講師　戦争遺構研究会　代表 柴田正己
問合　戦争遺構研究会
Tel.090-4289-1492

大阪歴史博物館
特集展示「中村順平と建築芸術教育」
6/3〜8/3

日本人として初めてパリのエコール・デ・ボザール（国立高等美術学校）で学び、フランス政府公認建築士となった大阪生まれの建築家中村順平が留学中に作成した建築設計課題の図面、横浜高等工業学校学校祭における建築科大行進に関連する原画などを展示します。
会期　6月3日（水）〜8月3日（月）
休館日　火曜日
開館時間　9:30〜17:00（入館は閉館30分前まで）
会場　大阪歴史博物館 8階 特集展示室
（常設展示場内）
観覧料　大人600円（常設展示観覧料）
展示資料数　約30件
関連事業　学芸員による展示解説
日時　6月13日（土）、6月21日（日）、
7月11日（土）、7月19日（日）
いずれも、午後2時より45分程度
担当　酒井一光（大阪歴史博物館学芸員）
会場　大阪歴史博物館 8階 特集展示室内
参加費　無料（ただし、入場には常設展示観覧券が必要です）
参加方法　当日、直接会場へお越しください。
問合　大阪歴史博物館
Tel.06-6946-5728
http://www.mus-his.city.osaka.jp/

ひろば HIROBA　『今、自治体のアツイとこっ！』　連載 第十回　和泉市

近年約二〇年間の和泉市のまちづくり

大阪府内のホットな取り組みをご紹介します。

文　吉田　優

はじめに

和泉市は大阪府南西部に位置しており、東西約六・九㎞、南北約一八・八㎞と南北に細長い地形となっています。市北部のJR阪和線沿線の既成市街地からなる地域に対して大阪外環状線以南には金剛生駒紀泉国定公園を含む山林が広がる地域が存在しています。近年の約二〇年間で市の各部は大きく変化しました。この度、和泉市のアツイところを紹介させていただく機会を得ましたので、近年の和泉市のまちづくりの動向とこれからの計画についてご紹介させていただきます。

1．中部地域

～和泉中央の開発～

UR都市機構により計画戸数約七、七〇〇戸、計画人口約二五、〇〇〇人の新住宅市街地開発事業がスタートし、平成四年にはトリヴェール和泉が街びらきしました。これを契機とし、平成七年には泉北高速鉄道和泉中央駅の開業及び桃山学院大学の全面移転による開校が実施され、和泉市中部の学・住・憩・働を兼ね備えた新市街地が形成されてきました。

トリヴェール和泉は大きく三つのブロックに分けられており、和泉中央駅を中心に商業・業務及び文化行政などの公共施設が集積し、その近傍に多様な住宅需要に対応した低層・中高層住宅を配置した「北部ブロック（いぶき野）」、桃山学院大学のある学園地区に併せて低層・中高層住宅を配置した「東部ブロック（まなび野、はつが野）」、そして「西部ブロック（あゆみ野）」は研究所・研修所とともにサービス産業施設を誘致する区域となっております。

この三ブロックでのまちづくりにより、これまで本市の人口は一定の増加を続けてきており、現在は一八万人を超える人口となっています。

北部ブロックでは平成一五年に出張所・図書館・ホール等の六つの機能を備えた和泉シティプラザのオープンに加えて和泉中央駅周辺に様々な商業施設も新規立地されました。

東部ブロックでは、平成一八年にトリヴェール和泉に「市立青葉はつが野小学校」が設置されました。また、現在も新たに小中一貫校の建設計画が進められています。

西部ブロックには阪和自動車道の岸和田和泉ICからのアクセスの良さもあり、平成二六年秋には大型商業施設である「らぽーと和泉」がオープンしたところです。

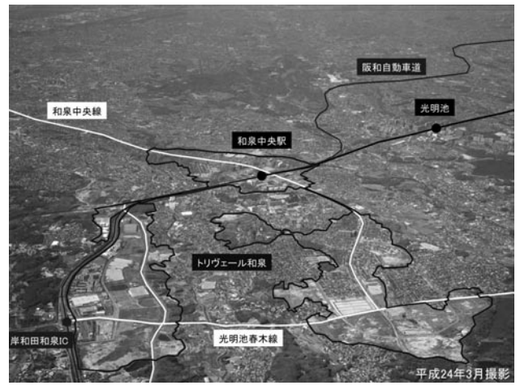
2．南部・北部地域

～二つのリージョンセンター～

先述のとおり、和泉市は南北に細長い地形となっており、北部・南部のそれぞれの地域における住民の活動拠点施設整備が進められました。

南部地域については、平成二〇年に南部リージョンセンターが設置されました。この施設には多目的ホールや会議室・図書室等を備えた生涯学習棟に各種証明書の発行が受けられるサービスセンターが設置されているほか、市内では初となる道の駅「いずみ山愛の里」が併設されており和泉市産の新鮮野菜や加工品・米粉パン等を販売しています。

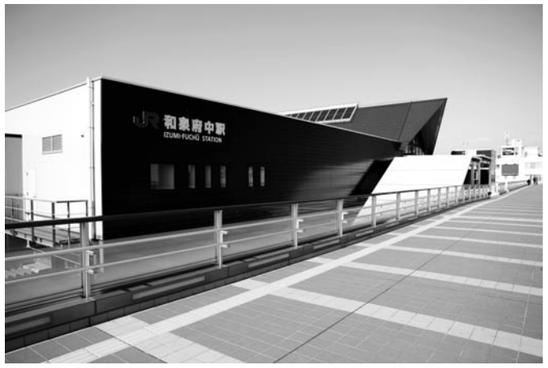
北部地域には、本年三月に北部リージョンセンターが建設され、現在は七月のオープンに向けて準備中です。こちらの施設についても、集会室・図書室・行政サービスセンター等の六つの機能を兼ね備えた施設となっており、南部リージョンセンターと同様に地域住民の活動拠点の場として整備されました。



北部リージョンセンター

これらの施設整備に当たっては、地元住民で構成されたまちづくり協議会が設置されました。リージョンセンターは地域の特性を生かしながら市と市民が協働してきめ細やかなまちづくりを推進し、地域活動の活性化と市民サービスの向上を図るため、「市民のための施設」と「行政サービス施設」を併せ持った施設となっております。

南部リージョンセンター



橋上化された和泉府中駅

3．北西部

～和泉府中駅周辺の再生～

市役所がある和泉府中駅周辺については平成二二年から市街地再開発事業が実施されており、本市の都心としてふさわしい市街地への再生を図っていました。

その事業のさきがけとして平成二三年二月には商業・業務施設や図書館、住宅、駐車場を含む床面積約三五、〇〇〇㎡の再開発ビル「フチュール和泉」が竣工しました。また、同年三月末には大阪府が施行した国道四八〇号のJR阪和線横断の鉄道立体交差事業のアンダーパス部分の和泉府中地下道が開通しました。

平成二五年五月には橋上化された新たな和泉府中駅舎の利用が開始され、翌年春には駅前広場及び歩行者デッキが、また、本年三月には駅前広場に面した場所に観光情報やイベントの案内、観光コースの相談などのサービスを行う「和泉市いずみの国観光おもてなし処」が完成しました。この施設では新たな和泉府中駅の顔として、訪れたお客様に満足していただき、再び和泉市へ来ていただくよう「おもてなしの心」を重視しております。

上：おもてなし処　下：和泉府中駅前広場

4．今後の和泉市

～新病院計画について～

現在、和泉市立病院の新病院建設事業を進めています。かねてから救急医療の再開、施設の老朽化（非耐震）及び慢性的な赤字経営等の課題を抱えていた和泉市立病院は「和泉市立病院あり方検討委員会」での検討を経て平成二六年度から指定管理者制度が導入されました。

現槇尾川公園（市民グラウンド）敷地に新病院を移転新築し、公園の再整備と併せた一体的な整備を行うことで、緑豊かで患者にやさしい病院づくりを目指すというコンセプトのもとで進められています。

平成二七年春にはプロポーザル方式により基本設計が選定されました。新病院は、病床三〇七床、延べ面積約二八、〇〇〇㎡を予定しており、平成三〇年の開院に向けて計画を進めております。

また、コスト縮減及び工期短縮のため実施設計と工事を一括発注するデザインビルド方式を採用します。

5．おわりに

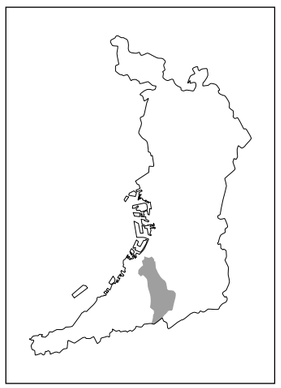
和泉市は、名前の由来でもある「和泉国」の国府があったことからも分かるように、古い歴史を持つ地域です。市内には、JR阪和線と並行するように「小栗街道（熊野古道）」が走っております。また、国の史跡にも指定された「池上曽根遺跡」があり、西国三十三所の四番札所である「槇尾山施福寺」もあります。

近年の新しく作られたものや大きな施設に目がいきがちですが、昔からの町並みを守っていくことも大切なことです。新しいものと古いものをそれぞれ生かしながら共存していくまちづくりというものもこれからは必要になっていくのではないか、そのように思われます。

吉田　優

和泉市都市デザイン部　建築・開発指導室　総括主幹

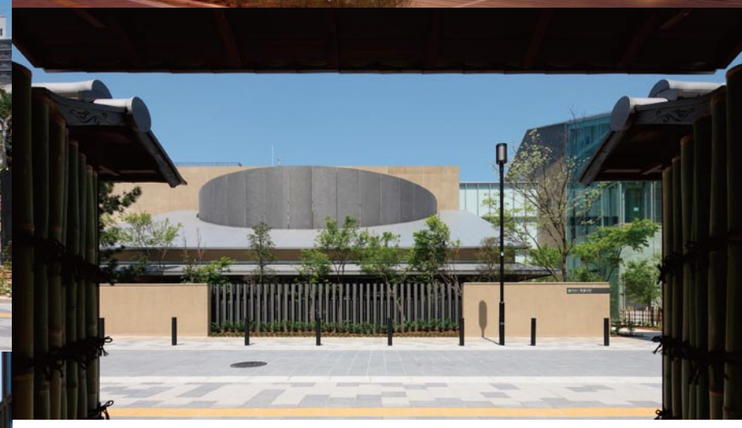
一九七四年　堺市生まれ
二〇〇〇年　和泉市へ入庁
建築営繕行政・建築指導行政に携わる
二〇一三年十月～二〇一五年三月
宮城県石巻市へ被災地応援のため派遣
現在に至る

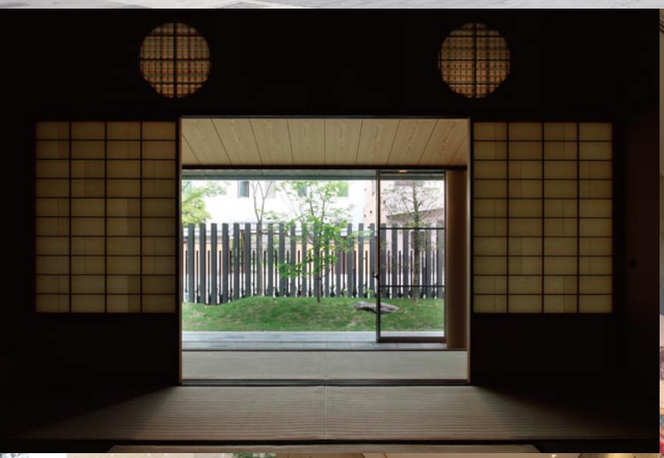


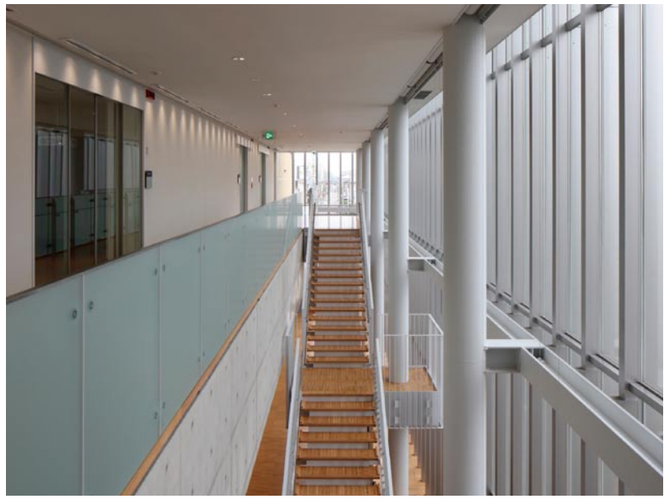
和泉市のイメージキャラクター「コダイくんとロマンちゃん」

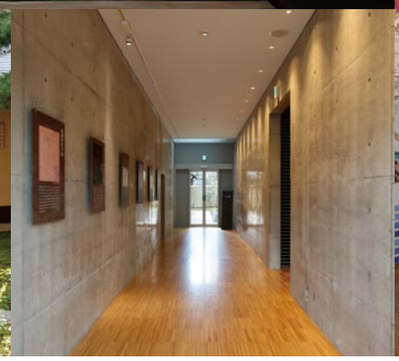
さかい利晶の杜

設計：東畑・ダイシン設計共同体（茶室監修：中村利則）
施工：橋爪・日野建設工事共同企業体









さかい利晶の杜は堺市の観光拠点として、堺観光案内展示、千利休・与謝野晶子展示室、茶の湯体験施設からなる。茶庭には祖形待庵が復元されている。堺は伝統ある都市であるとともに「もののはじまりなんでも堺」という進取の気風を持つ。さかい利晶の杜の建築は、「家型」や「土壁」など伝統的な形態や素材が、ガラスや金属パネルと同じ場所にあることで「堺」を象徴する。エントランスと観光案内展示室はダブルスキンのガラスで覆い、昼夜の人の賑わいを外部に滲ませる。外部を巡る様々な緑の空間は「市中の山居」を敷地全体に展開して多様な貌を見せ、茶室に面した茶庭は最も深い庭を形成して、訪れた者に沈黙を与える。（北村　潤／東畑建築事務所）

所在地：堺市堺区
用　途：観光案内施設
　　博物館
竣　工：2015.02
構造規模：RC（1部PC）・
　　S・W造地上3階
敷地面積：4,134.40㎡
建築面積：1,991.35㎡
延床面積：3,405.67㎡
写　真：野口兼史

特別養護老人ホーム やすらぎの杜

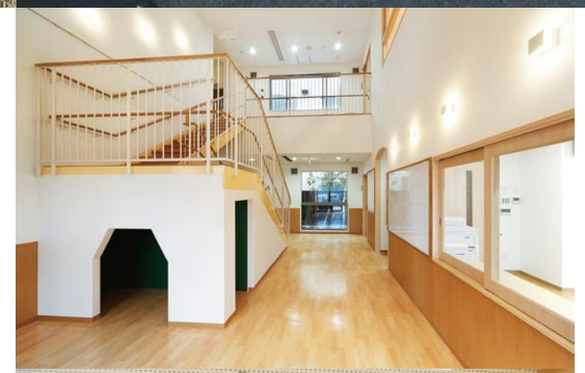
設計：アーキ・プランニング・オフィス
施工：村本建設

敷地は山手幹線に面し同志社大学の建築群を望む緑豊かな落ち着いた場所にあります。恵まれた自然と光・風を最大限取り込むため建物を２棟に分けました。その間に中庭を配置し、それを横断するブリッジ状の廊下を２本設ける事で外の風景を感じながら各階で中庭（吹抜）を回遊できます。エントランスとそれにつながる中庭には手漉き和紙作家、造園家とのコラボによる「自然」をテーマにした光と風と緑にあふれる空間が広がります。屋上テラスにはウッドデッキを敷き詰め緑地・菜園を設けました。高齢者の一人一人が自分の好きな場所を見つけそこに出向いて自由な時間を存分に楽しんでもらえたらと思います。（岡﨑　雅）

建築主：社会福祉法人やすらぎ福祉会
所在地：京都府京田辺市
用　途：特別養護老人ホーム
　　デイサービス
竣　工：2015.01
構造規模：RC 造４階建
敷地面積：3961.14㎡
延床面積：5944.75㎡
写　真：市川かおり

勢至学園西九条園

設計：田中都市建築事務所
施工：KH プランニング



敷地は安治川隧道の二筋北側に位置し、南面を長手に接道したほぼ長方形の形状をしている。そこで園庭を中心としたかぎ型の配置となっている。カギの部分の１階は事務所や厨房などの監理部門、２階に遊戯室を配置し、そこから内部階段を含めた吹抜け空間を挟んで保育室が連なっている。保育室からはバルコニーデッキを通って園庭に出ることができ、子供たちが外部で遊ぶことを促している。道路面に沿って植えた紅カナメモチやスダジイ、ソメイヨシノやドウダンツツジなどはまだまだ幼いが、子らの成長とともに大きく繁れば、四季折々の景色や香りを味わせてくれるだろう。（田中義久・蛭子葉子）

所在地：大阪市此花区
用　途：保育所
施　工：2015.03
構造規模：鉄骨造２階建
敷地面積：602.21㎡
建築面積：323.10㎡
延床面積：497.96㎡

連載 建築の射程 第27回

若者から子育て世代、シニア世代とさまざまな人々にとって住みやすいコミュニティであり続けるために。2013年に始まった男山団地を対象とした八幡市、関西大学、UR都市機構の共同による地域再生活性化プロジェクトの取り組みと成果、今後の展開について、UR都市機構の田邉豪二さんにご紹介いただきました。

男山UR賃貸住宅のリノベーションについて

田邉　豪二

独立行政法人都市再生機構西日本支社 ストック事業推進部ストック再編事業第2チーム

平成5年入社後、枚方市香里団地、西宮市浜甲子園団地のUR賃貸住宅の建て替え事業の計画や、UR賃貸住宅ストック再生・再編方針の策定に関わるなどの業務を実施。平成26年からストック事業推進部にて、男山団地のプロジェクトを担当。

1．UR賃貸住宅について

UR賃貸住宅とは、都市基盤整備公団（さらに前身は昭和三〇年に設立された日本住宅公団）から受け継いだ賃貸住宅（公団住宅）に都市機構の英語の略称「UR」を冠した住宅です。

公団住宅は、住宅不足著しい地域において、勤労者のための耐火性能を有する構造の集合住宅の供給を行うことなどを目的として整備されてきた住宅です。

平成二四年度末時点の管理戸数は、約七五万戸ですが、昭和三〇年代の住宅は建て替えが進んでおり、約四万七千戸、約六％ですが、昭和四〇年代に管理開始している住宅は、約三二万一千戸、約四三％を占めている状況です。

2．UR賃貸住宅の団地再生、住戸のリノベーションについて

UR都市機構では、平成一九年度に策定した「ストック再生・再編方針」の中で、約一六万戸を「団地再生」と位置づけるとともに、新たな方向性として「高齢者の安心居住」「子育て支援」「地域の多機能拠点」について取り組むと打ち出しました。

住戸のリノベーションでは、昭和四〇年代団地を中心に、MUJIや、イケア、京都女子大学等とのコラボレーションにより、特に若者に訴求する住宅供給も近年行っています。

その他、平成二六年度には、超高齢社会における「地域包括ケアシステム」の実現に向け、地域医療福祉拠点の形成（医療福祉施設等の充実だけでなく、若者世帯、子育て世帯等のコミュニティ形成の推進なども含む）を目指した取り組みを、地方公共団体等と連携して推進していくことを公表し、その先行的取組み団地として、UR男山団地など二三団地を上げています。

3．男山団地での取り組み

UR男山団地は、京都府八幡市に位置し、昭和四七年度から管理開始した一四七棟、約四、六〇〇戸の団地です。このUR男山団地を中心とする男山地域は、八幡市の人口の約七万三千人の一／三が居住する地域となっています。

この男山地域を対象として、平成二五年一〇月に、京都府知事立会いのもと、八幡市「集合住宅〝団地〟の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究」を行う関西大学、UR都市機構の三者が「住みたい、住みつづけたい、男山」を目指して、相互に連携・協力する「男山地域まちづくり連携協定」を締結しました。

その協定締結後、協定に基づき、京都府を含む四者で「次世代を育むまちづくり（子育て支援）」「地域包括ケアの確立（高齢者対応）」「地域に活力を呼び戻すまちづくり、住民が主役となるまちづくり（コミュニティ活動・形成支援）」に取り組んできました。

平成二六年度の主な取り組みの成果としては、高齢者対応では、UR男山団地内に地域包括ケア複合施設が平成二七年秋竣工、開設に向けて着工しました。コミュニティ活動・形成支援では、UR男山団地のセンター地区の施設に、関西大学の学生が主体となって運営する「だんだんテラス」が三六五日オープンし、朝市や一〇時からのラジオ体操、夏にはエジソンの竹で有名な竹を使った流しそうめんなどのイベントも実施しました。また京都府が全国で初めて創設した半公半民の府職員の「まちの公共員」を中心に、市、関西大学、UR都市機構が実施する「男山やってみよう会議」という地域の方々が男山のまちづくりとして何かをしよう、という会議が平成二七年三月からスタートしています。

そして子育て支援では、「ダンチ deコソダテ in男山」を目指し、団地のA地区集会所の和室をUR都市機構が改修し、週四日地域の子育て支援団体（おひさまテラス）が、親子が集い触れ合う場や一時預かりを運営しています。そして、関西大学とUR都市機構のコラボレーションにより、子育て住まいのリノベーションとして五戸の住戸改修を実施し、平成二七年二月に四戸を募集し、入居に至っています。

4．子育て住まいのリノベーションについて

UR男山団地A地区の子育て支援を行う集会所の周囲にある三階から五階の住戸から、長期間お住まいだった住戸で、流し台など設備の更新が必要な住戸や床などの傷みが激しい住戸など通常より修繕費用を要する住戸を五戸選定しました。

選定した3K（48㎡）の住戸五戸について、関西大学大学院の学生などが基本設計を行いました。その後、多くの住戸リノベーションを実施してきたUR都市機構メンバーと仕様や設備などの打ち合わせを重ねました。現地打ち合わせを行い、見積が上がった後は、また工事費の精査や仕様変更などの打ち合わせを経て、工事の発注、実施に至ったところです。

基本的なコンセプトは、「のびやかに暮らせる団地」として、「のびのびしたプランニング」「見守り、感じられるプランニング」という計画をしています。

型式としては、3Kから1LDK、2DKの二タイプの住戸を計画しました。

「のびのびしたプランニング」とは、現状の階段室型住宅の魅力である、南北の抜けを意識しながら、①大きな空間を必要に応じて分ける②気持ちよく立てるキッチン③明るく気持ちのいいサニタリールームの三点を柱に計画しています。また「見守り、感じられるプランニング」とは、「キッチンから見える」「気配を感じられるつながりの空間」など、少し離れた場所に居ても、見守り、気配を感じられるような空間構成となるように計画しています。

具体には、南面二室とキッチンであった部屋を一室という空間にしたり、一室まではいかないけれども、キッチンと個室の間の壁をくり抜いてキッチンから見えるようにしています。これまでプライバシーの観点から擦りガラスだったものを透明ガラスにし、明るく開放感のある室内空間の実現だけでなく、団地の持つ魅力的な屋外空間を感じることを目的にしています。サニタリー部分も、できる限り大きくするため、壁の位置を移動したり、また思い切ってトイレの扉を取り払い、洗面所空間と一体させ、広い空間を作ったりしています。

その他、個々の部屋ごとに趣向を変えています。例えば、子どもや親が南の日差しのもと寝そべることができるような畳の部屋にしたり、ママ友が子どもたちと集まって食事を作ったり、食べたりしやすいような大きなテーブルを据えたりしています。

ダンチ de コソダテ in 男山団地リーフレット

5．募集時の反応や募集結果、平成二七年度の展開について

UR都市機構では、二月に約一週間（八日間）内覧会を開催し、九日目に募集受付、抽選を行いました。

募集家賃は、もとの家賃から二千円から二千五百円程度上がりました。この期間の来場者は、のべ八三組で、四戸に対し一八件の応募、応募倍率四．五倍という状況で、契約、入居に至っています。

来場された方々の声としては、明るくてよい、広々していてよい、開放感がよいという肯定的意見もあれば、収納が少ないという否定的な意見も出ているのが現状です。

しかし、この二年程度のUR男山団地の住宅募集への来場者に占める三〇代以下の若年世帯は、約四五％であり、今回のリノベーション物件では、約七〇％ということで、若年世帯への訴求効果があったものと思われます。

大きな畳リビングのある住まい

プレイルームのある住まい

大きなワンルーム使いのできる住まい

大きなワンルーム使いのできる住まい

大きなキッチンが家の中心にある住まい

UR男山団地

また、この子育て住まいのリノベーション募集により来訪された若い世帯が、結果として他のUR男山団地内の住戸をご契約されるなど、単に四戸の募集という以上の成果があったと思います。

平成二七年度においても、関西大学やだんだんテラスとのコラボレーションにより、若い世代に訴求する住戸や、住まい手の意向をより強く反映した住戸の改修などを実施していく予定です。

引き続き、UR男山団地、男山地域まちづくりを見ていただければと思います。

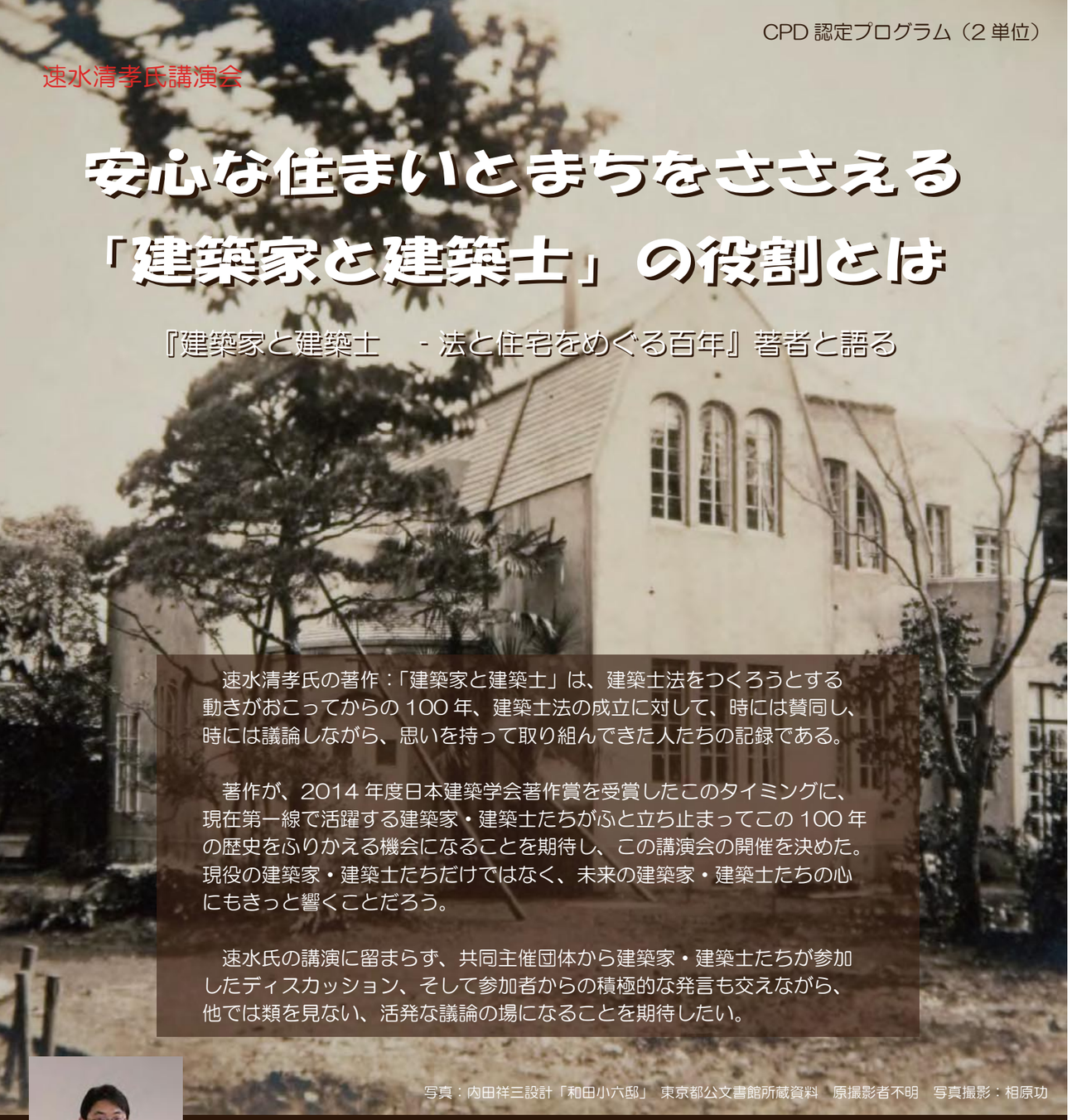
参考　男山団地：http://www.ur-net.go.jp/kansai/otokoyama_danchi/
MUJI × UR：http://www.ur-net.go.jp/muji/
京都女子大学× UR：http://www.ur-net.go.jp/kansai/kyojo/project.html

CPD 認定プログラム（２単位）

速水清孝氏講演会

安心な住まいとまちをささえる「建築家と建築士」の役割とは

『建築家と建築士　- 法と住宅をめぐる百年』著者と語る



速水清孝氏の著作：「建築家と建築士」は、建築士法をつくろうとする動きがおこってからの 100 年、建築士法の成立に対して、時には賛同し、時には議論しながら、思いを持って取り組んできた人たちの記録である。

著作が、2014 年度日本建築学会著作賞を受賞したこのタイミングに、現在第一線で活躍する建築家・建築士たちがふと立ち止まってこの 100 年の歴史をふりかえる機会になることを期待し、この講演会の開催を決めた。現役の建築家・建築士たちだけではなく、未来の建築家・建築士たちの心にもきっと響くことだろう。

速水氏の講演に留まらず、共同主催団体から建築家・建築士たちが参加したディスカッション、そして参加者からの積極的な発言も交えながら、他では類を見ない、活発な議論の場になることを期待したい。

写真：内田祥三設計「和田小六邸」 東京都公文書館所蔵資料　原撮影者不明　写真撮影：相原功

速水清孝（はやみ・きよたか）氏プロフィール

1967 年生まれ。千葉大学卒業、大学院修士課程修了。
郵政省大臣官房建築部などを経て、東京大学大学院博士課程修了。
東京大学生産技術研究所博士研究員を経て、現在日本大学工学部教授
博士（工学）、一級建築士。東京建築士会所属。
2007 年日本建築学会奨励賞、2013 年建築史学会賞
2014 年日本建築学会著作賞
著作：「建築家と建築士 - 法と住宅をめぐる百年」
東京大学出版会　2011 年9月出版

日　　時：2015 年６月 13 日（土）15 時～ 17 時
（受付開始：14 時 30 分）

場　　所：531-6023　大阪市北区大淀中 1-1
梅田スカイビルタワーウエスト　36 階

講　　師：速水　清孝氏（日本大学　教授）

共同主催：NPO 法人　西山夘三記念すまい・まちづくり文庫
（公社）大阪府建築士会、（公社）日本建築家協会近畿支部
（一社）日本建築協会、（一社）大阪府建築士事務所協会

後　　援：（一社）日本建築学会、近畿建築士会協議会、NPO 法人　住宅長期保証支援センター

協　　賛：積水ハウス株式会社、積水ハウス梅田オペレーション株式会社

参 加 費 ：無料

定　　員：１００名、要申し込み（先着順）

申込・問合先：日本建築家協会近畿支部
E-mail: jia@bc.wakwak.com　TEL:06-6229-3371 FAX:06-6229-3374

理事会報告

平成27年度役員名簿　＊は委員長

会　長
岡本森廣　全日本コンサルタント㈱技術部調査役

副会長
上田茂久　㈱上田茂久建築設計工房代表取締役
濵田　徹　㈱イリア関西事務所長
田中義久　㈱田中都市建築事務所代表取締役
中嶋節子　京都大学大学院人間・環境学研究科教授

理　事
岩岸克浩　㈱イワギン取締役
大附一彦　新建設工業㈱代表取締役
＊岡崎　雅　㈱アーキ・プランニング・オフィス代表取締役
荻窪伸彦　㈱安井建築設計事務所マネジメントビジネス部長
尾鍋裕実　尾鍋建築設計事務所代表
北野幹夫　大阪市都市計画局開発調整部開発誘導課長
熊田将男　安井建築設計事務所工事管理部長
黒川宗範　㈱大林組大阪本店建築事業部プロジェクト設計部担当課長
小谷美樹　積水ウス㈱経営企画部ダイバーシティ推進室部長
七堂元敏　堺市建築都市局開発調整部長
篠原祥郎　高槻市都市創造部審査指導課主査
昇　勇　昇設計室代表
杉本哲雄　独立現代都市研究所代表
曽我部千鶴美　Wi+h建築工房一級建築士事務所代表
田中克之　設計TANAKA所長
田中光典　㈱竹中工務店設計部企画プロポーザル部門企画グループ長
田鍋　稔　鹿島建設㈱建築設計部企画管理グループ設計主査
辻井光憲　大和ハウス工業㈱建築設計部課長
津村泰夫　一級建築士事務所住環境設計代表
徳岡浩二　㈱徳岡設計代表取締役社長
中島　薫　ナカジマ建設㈱代表取締役
羽木みどり　アークスタジオ一級建築士事務所長
橋本頼幸　こま設計堂代表
＊藤田　忍　大阪市立大学大学院教授
牧野隆義　㈱アトリエビクト代表取締役
萬川幹夫　萬川建築設計事務所長
＊水谷　敢　㈲MCompany一級建築士事務所代表取締役
宮地雄一郎　㈱安井建築設計事務所企画部企画主幹
室木　裕　アトリエカララ代表
森田茂夫　㈱東京建物アメニティサポート関西支店業務管理部調査役
守屋一之　守屋建築事務所代表
＊山地康夫　コーナン建設㈱取締役常務執行役員営業副本部長
山城健児　山本尚一設計工房代表
山本尚子　㈱能勢建築構造研究所代表取締役社長
＊横田友行　㈱碧ーAO-建築事務所代表取締役
＊芳村隆史　㈱東畑建築事務所取締役常務執行役員大阪事務所長
＊米井　寛

専務理事
杉原　繁（公社）大阪府建築士会専務理事

監　事
小嶋和平　サンヨーホームズ㈱常勤顧問
神保勲　㈱神保塗装代表取締役

建築相談

建築士の見たトラブル事例（二十八）
専門家の存在とその価値

編・構成　橋本頼幸

専門家としての建築士がいればそのトラブルは回避できたのに、というケースはしばしば見かけます。一方で一般消費者から見た建築士のイメージはまだまだ身近にはなく、「敷居が高い」印象が根底にあります。「こんなことを相談してもいいのかなぁ」という一般の方の相談のほとんどは我々建築士から見れば、「なぜもっと早く頼んでこないのか？」と思う内容ばかりです。今月は、相談事例を交えて相談委員の岩岸克浩様に話題提供をしていただきました。

監理者がいれば…

このように計画・施工するとしていたのに、思惑と違う…はよく聞く話です。発注者は、施工者が「契約通りです」と言うが本当なのかわからない、と不安になります。明らかに契約と違うのであれば、専門家のアドバイスとしても違いますねと言えるのですが、どちらとも取れるような曖昧な説明と契約を結んでいるなどの時は本当に困ります。アドバイスとしても、きちんと内容を確認してしっかりと納得の上で契約してくださいとしか言えないのですが、実際は監理をする建築士がいれば状況は変わるはずです。

専門家不在の場合は複雑になる

設計監理の介在しない施工者との直接契約のみの施工のケースでは、さらに複雑になります。業者は概ね良心的なところが多いとは思いますが、そうでないところも存在します。だからトラブルになるのですが、建築士が設計せず、建築の知識に乏しい発注者に、「ここは危険だから」「なにかあっては大変」「もうだめですよ」などと不安をあおるような〝営業トーク〟から入って、必要のない箇所・過剰な施工や高価な見積もりなどを行い仕事にしていく、このような相談を受けることがあります。

このような契約形態は、本来信頼関係があるからこそ成り立っています。実直に施工していただける良心的な業者であれば問題ないのですが、そうでない場合は、不幸な結果になることは容易に想像がつきます。しかも相談アドバイスとしては監理契約を結んでいない状態では、先ほどと同様「納得の上で進めて下さい」としかいえず、なんとも歯がゆい気持ちになります。

建築士の存在とその価値

多くの発注者は、「設計費が高いから」「誰に頼めば良いのかわからなくて」などよく聞く話がでてきます。言うまでもありませんが、実際施工の必要の無かった無駄な出費や後日トラブルになってからかかる費用から比べると設計・監理に要する費用が高額になることはありません。しかし、誰に頼めばいいのか？に関しては、適切な案内ができないのも事実です。

事実、一般の人からすると「敷居が高く」「どの人を信用していいのかわからない」など、まだまだ謎めいた建築士イメージがあります。建築士は、社会にもっと貢献して「正直で良質な」建築士がたくさんいることをもっとアピールできる場をつくり、積極的に出た方がいいのではと感じます。

建築士が身近になるというのは想像以上に難しいものです。技術や情報を提供するわけですから、「安売り」はできません。一人の「安売り」が建築士全体の価値を下げ、信用を失うことにつながります。今後ますます、消費者から気軽に相談できる専門家としての建築士が、社会に求められるのではないでしょうか。

大阪ホンマもん解説

写真　田籠哲也　文　牧野隆義

大阪市中央区に壁面を緑の蔦で覆われたビルが建っている。名前は「青山ビル」で、少しだけ開かれた出入口が何とも奥ゆかしい。

そもそも高級食材店を営む野田源次郎氏の住まいとして建てられ、青山喜一の所有となった後、一時期はGHQ向けの娯楽施設になったが、戦後は貸ビルとなった。

設計は伊東恒治氏が担い、施工は大林組が担当した。構造は鉄筋コンクリート造で、規模は地下一階、地上三階建て。後に四階、五階部分を増築している。スパニッシュスタイルの意匠を纏ったビルは、大正一〇年（一九二一年）に竣工した。平成九年には国指定登録有形文化財の指定を受けている。

建物を覆いつくす緑の蔦は甲子園球場から株分けされたもので、都会のど真ん中にあって心癒される自然を喚起させる。一階に老舗の喫茶店が営業していたが、現在は新たな喫茶店が入居している。

道行く人々の眼を楽しませてくれる風景となっている建物ではあるが、メンテナンスが欠かせないわけで、とかく応援したくなる気持ちが自然と湧いてくる。

建築人　6
2015

監修　公益社団法人大阪府建築士会
建築情報委員会

編集　建築情報委員会『建築人』編集部
編集人代表　米井　寛
編集人　荒木公樹　飯田英二
河合哲夫　黒川祐樹
筑波幸一郎　中江　哲
橋本頼幸　牧野隆義
事務局　山本茂樹　母倉政美
印刷　中和印刷紙器株式会社

大阪木材仲買会館　「都市の中の森」を創る

木は人に温もりと安らぎを与えてくれる。しかし、ビルのワーカーが一日の大半を過ごす都市の建物ではそれを感じることは難しい。大阪木材仲買会館は、「コンクリートと鉄の都市」を「木の森」に変えることを目指す木造オフィスビルのモデルプロジェクトである。オフィスで木のぬくもりと安らぎが感じられることで、人々のくらしがより豊かになると考える。

近年、木材利用が注目を浴びているが、都市密集地域においては防火上ほぼ全て耐火建築物が求められ、木材利用、特に構造体への利用が困難である。この建物では新たに開発した耐火木構造により、木の表情や香りに溢れる空間を実現し、さらに「伝統的な技術を伝承しながらメンテナンス性・防災・空間性の観点で木材の特性を生かすこと」で、都市の生活の中で身近に木を感じられる空間を創出している。

耐火集成材の柱・梁を積極的にみせることを意識して上階2層を木架構とし、さらに道路に面した全面に木製建具を用いている。これらの木製ファサードを既存の桜の大木を取り囲むように敷地一杯に開くことで、街並みと執務空間に最大限木材が現れる構成としている。また軒庇のある外部空間を全体に設け新たなワーカーの場を創ることで、人・木・街の緩やかな繋がりを生み出している。深い軒庇は外部に露出した木材を雨や日差しから守るとともに、明快な避難経路として利用することで防災面での安全性を確保し、天然の木の香りにあふれる空間を実現している。

この耐火木造ビルは、技術革新やエコ・木の情報発信に留まらず、ビルのワーカーだけでなく都市にも安らぎを与え、これからの人と木と都市の関わり方を示す手掛かりになると考える。

（白波瀬智幸＋興津俊宏／竹中工務店）

撮影：母倉知樹　第34回大阪都市景観建築賞審査員特別賞受賞作品

■プロフィール

白波瀬智幸（しらはせ・ともゆき）
1978年 京都府生まれ
2002年 神戸大学大学院自然科学研究科修了
2002年～ 竹中工務店
現在、同大阪本店設計グループ主任

興津俊宏（おきつ・としひろ）
1981年 兵庫県生まれ
2006年 広島大学大学院工学研究科修了
2006年～ 竹中工務店
現在、同大阪本店設計グループ主任

■建物データ

建　築　主：大阪木材仲買協同組合
設　　計：竹中工務店
施　　工：竹中工務店
所 在 地：大阪市西区南堀江
用　　途：事務所
竣　　工：2013年3月
構造規模：W造+ＲＣ造
　　地上3階建
敷地面積：1,226.40㎡
建築面積：453.27㎡
延床面積：1,032.19㎡

建築人 No.612　平成27年6月1日発行　発行人：会長／岡本森廣　発行所：公益社団法人大阪府建築士会　〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F　tel.06-6947-1961